

キトラ古墳壁画の取り外しについて

平成 22 年 10 月 12 日 (火) ~11 月 25 日 (木) にかけて側壁の余白漆喰部分 (泥の下に十二支「辰」「巳」「申」の存在が見込まれる部分を含む。) の集中的な取り外しを実施し、石室内の全ての壁画の取り外しを終了した。

平成 16 年 8 月の取り外し作業開始から約 6 年 4 ヶ月かけて作業を行った。

1. 作業期間

平成 16 年 8 月 ~ 平成 22 年 11 月 (約 6 年 4 ヶ月間)

2. 取り外した漆喰片

1143 片

3. 概 要

- 石室内部の壁画の損傷が著しく速やかに保存処置を行う必要があるため、「特別史跡キトラ古墳の保存・活用等に関する調査研究委員会」において、平成 16 年 7 月に「青龍」「白虎」の一部等の取り外しを決定、同年 9 月に壁画の全面取り外しの方針を決定。
- 石室内のカビの定期点検・処置を実施しながら、順次壁画 (青龍、白虎、玄武、朱雀、天井天文図) の取り外しを開始 (平成 16 年 8 月に取り外し作業開始)。
- 平成 20 年 11 月には、絵が描かれている部分の取り外しが終了。
- 絵が描かれていない余白漆喰については、石室内のカビを紫外線照射と薬剤で制御しながら、年 2 回程度、期間集中的に取り外すことにより、平成 23 年度末までに全面取り外しを目指すこととしていたが、平成 22 年 11 月 25 日をもって全面取り外しを終了した。



ヘラによる取り外し



ダイヤモンド・ワイヤーソーの使用

4. 取り外した壁画の仮保存処置

- 取り外した壁画については、保存・展示を行うために標準的な工程によって仮保存処置がなされている。
- 泥に転写された状態で発見された十二支「午」については、現在、保冷庫内で保存しており、当面の間、状態を観察しながら、現状を維持することとする。
- 泥の下に残されている可能性の高い十二支「辰」「巳」「申」については、取り外した後、壁画の状態を確認し、当面の間、脱酸素剤を同封し、窒素で密封する。その後、生物被害等を抑えながら、過乾燥にも留意し、経過を観察する。

(古墳壁画の保存活用に関する検討会(第1回)参考資料2、(第3回)資料2を参照)

5. 取り外し後の石室内の保存対策

- 生物被害が大きい高温の時期においては、点検も含めて人の出入りを避けることとし、引き続き間欠的な紫外線(UV)照射による生物制御を行う。
- 石室内の様子については、透明な窓越しに観察するに留める。ただし、石室内に異常が確認された場合は、現場の判断により随時必要な措置を行う。

(参考) 取り外し作業の経緯

平成16年	7月	剥がれ落ちそうな壁画部分「青龍」、「白虎」の胴体部分、十二支像「戌」の取り外しの取り外しを決定(第6回委員会)
	8~9月	剥がれ落ちそうな壁画部分「青龍」、「白虎」の胴体部分、十二支像「戌」の取り外し
	9月	壁画の全面取り外しの方針を決定(第7回委員会)
平成17年	5月	「白虎」前足部分の取り外し作業
	6月	「朱雀」の周りの漆喰の取り外し作業(新たに十二支像「午」を泥に転写された状態で確認)
	9月	微生物被害により漆喰に穴が空く等、石室内の生物環境が悪化
	11月	「玄武」、十二支像「子」「丑」「亥」の取り外し作業
	12月	十二支像「寅」の裾の取り外し作業
平成18年	11月	従来のヘラによる取り外しでは困難であるため、ダイヤモンドワイヤー・ソーによる剥ぎ取りを決定(第10回委員会)
	12月	十二支像「寅」の取り外し作業(ダイヤモンドワイヤー・ソーを使用)
平成19年	2月	「朱雀」の取り外し(ダイヤモンドワイヤー・ソーを使用)
平成20年	11月	天井天文図の取り外しが終了(絵が描かれている部分の取り外しが全て終了)
平成21年	3月	新たな壁画保存措置の方法(壁画の集中的な取り外し、紫外線照射による生物制御、石室内点検方法の変更)を決定(第4回検討会)
	5月	4週間の壁画(余白漆喰)の集中取り外し
	8月	将来的な壁画の保存管理について、当面の間、石室外の適切な施設で保存管理・公開する方針を決定(第6回検討会)
		平成23年度末までに全面取り外しを予定(第6回検討会)
平成22年	10~11月	6週間の壁画(余白漆喰)の集中取り外し
	4~6月	6週間の壁画(余白漆喰)の集中取り外し
	5月	将来的に壁画の保存管理する場所について、当面の間、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区内で検討する方向性を決定(第2回検討会)
	10~11月	6週間の壁画(余白漆喰)の集中取り外し (全ての壁画の取り外しを終了)(~11月25日)

(注1「委員会」 特別史跡キトラ古墳の保存・活用等に関する調査研究委員会

(平成13年7月~平成20年3月)

(注2「検討会」 古墳壁画保存活用検討会

(平成20年5月~平成22年3月)

古墳壁画の保存活用に関する検討会

(平成22年4月~)

キトラ古墳石室内写真

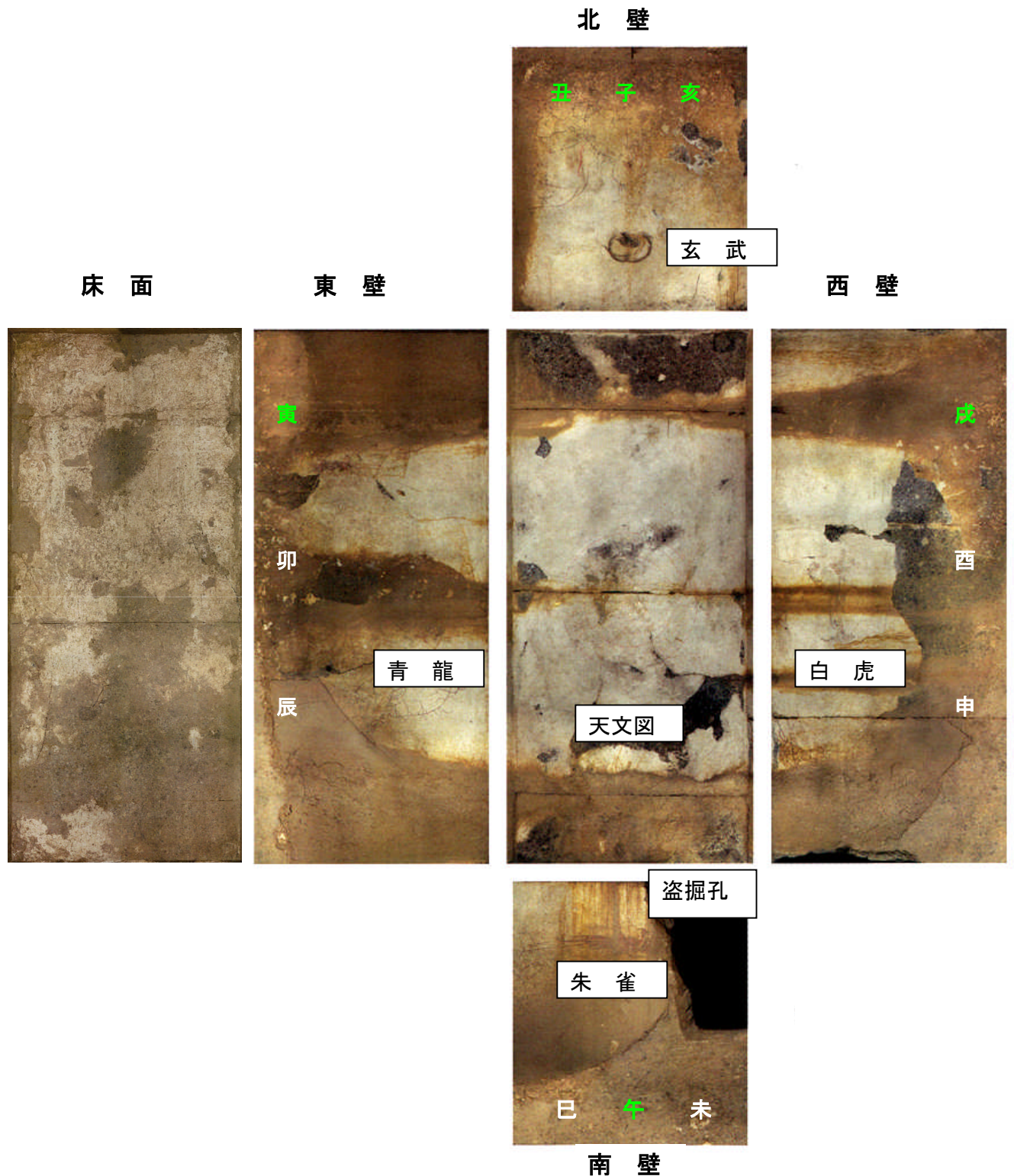


平成 16 年（2004）の発掘調査前の状況



平成 22 年（2010）11 月の壁画取り出し作業終了時の状況

(参考) キトラ古墳壁画の石室内配置 (石室展開図)



* 本図は天井を中心に石室を展開したものである。このため北壁壁画の天地、東西壁の位置が逆転している。

* 十二支像のうち確認されているものを緑色で示した。

* 奈良文化財研究所撮影のフォトマップに、基づき作成した。

キトラ古墳壁画の石室内配置（石室展開図）

（平成 22 年 11 月末現在）

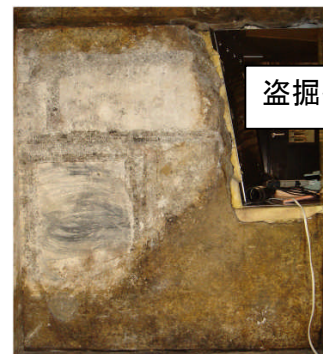
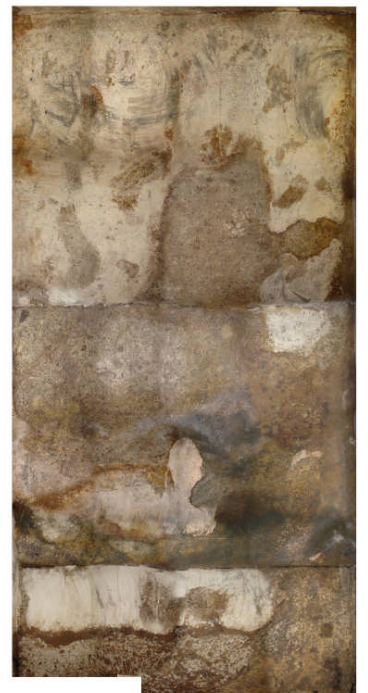
北 壁



東 壁



西 壁



南 壁

* 本図は天井を中心に石室を展開したものである。このため北壁壁画の天地、東西壁の位置が逆転している。